

報告書

私は5月9日から5月25日まで、英国王立園芸協会が主催する Chelsea Flower Show 2017 に本学学生代表として参加しました。本学卒業生であり大先輩である石原和幸さんが5年連続金賞を受賞しているこの大会で、私は株式会社石原和幸デザイン研究所チャレンジスタッフとして渡英いたしました。

私の参加目的は、初めての海外活動体験を得ることと、昨年本学学園祭で実行委員長という重責を経験したことから、石原和幸さんのリーダー的手腕に興味を持ち、色々なものを側で吸収したいとの思いを強く持ったからです。

チャレンジスタッフは主に職人のサポートを行います。園芸のお仕事をされている方や、花に触ることでリフレッシュするために参加した人、園芸に興味を持っている方などその目的は様々でした。なお、スタッフ9名の内学生は私1人だけでした。

4月に東京で打ち合わせ兼顔合わせなど綿密な準備を進め、渡英の日を迎えました。日本からイギリスまでは飛行時間11時間30分、ヒースロー空港に降り立ちました。ここでハプニング！入国審査の際に英語で質問されましたが、英語が苦手な私は一つの質問に答えることが出来ず30分ほど入国が出来なかったのです。初めてのことで私はものすごく焦りました。何とか入国することが出来ましたが、チャレンジスタッフの方々は先にホテルに向かってしまっていたので、一人空港内で荷物を受け取りホテルまで向かう羽目になりました。初日からこんなハプニングがあり、私は「これから大丈夫なのか…」と先を思い悩みました。

2日目からは石原さんや日本から来た職人の方々、現地採用スタッフと一緒に作業を行いました。園芸はこれまで経験がなく石原さんやチャレンジスタッフの方々に教わりながら、草木の手入れや苔の清掃など、作品にとって重要な作業をさせていただきました。作品は現地で一から作り上げました。作業初日には木材を加工し作品の枠組み制作、水を使った作品なので生コンクリートで施工を行うなど、園芸ではなく建築をしているような感覚になりました。また、生コンクリートはミキサー車が会場内に入れないので手押し一輪車で運びました。その後、紅葉や松、ドクダミなどの植物を石原さんの指示に従って設置し、この作品の中で一番重要な苔の設置作業を行いました。

石原さんに「苔なしでは生きていけない」とまで言わせる苔ですが、作品の大半を占める植物です。私は丸苔を手入れし、設置する作業を主に行いました。苔上にあるごみを丁寧に取り除き、圧力をかけて丸みを帯びさせ作品に設置しましたが、意識的に触ったことのない植物なので取り扱い方のコツがつかめず、丸みをつけたときにひび割れが出来たりと苦戦しました。しかし石原さんの丁寧で情熱的なご指導のおかげで最後にはきれいな丸

苔を作ることが出来るようになりました。作品としては5月10日から5月18日の8日間で完成させ、残りの2日間を作品の清掃を行いました。5月21日、22日はエリザベス女王などVIPの方々が見に来られるほか、作品の採点など行うのでスタッフは会場内に入れません。この2日間の清掃は重要なので、みんな緊迫した空気の中で清掃を行いました。苔はガムテープなどでごみを取り除き、水は何度か入れ替えを行い、濁りを取り、水面のごみはネットで掬い取るなど、最大限の清掃を行いました。しかしまたここでハプニング！なんと我々が帰宅した後鳥が苔を掘り起こしてしまったのです。翌日出勤した我々は笑うしかありませんでした。何とか修正を終え、ゴールドメダルを祈りながら作業は終了しました。その後2日間は現地での初の休日だったので観光地巡りを行いました。代表的なバッキンガム宮殿をはじめ大英博物館などフルで行動しました。

そして運命の23日。その日はマンチェスターでテロがあり不安な中チェルシーフラワーショーは開催しました。スタッフみんなで作品の受賞を待ちわびる中、石原さんの作品『御所の庭 / No wall , No war』はゴールドメダルを受賞することが出来ました!!この受賞で石原和幸さんは6年連続受賞と快挙を成し遂げることが出来ました。私はこのときの「自分が参加した作品で受賞することが出来た」という強い喜びと感動を、昨日のことのように覚えています。その日の夜には石原さんの宿泊場所の近くで打ち上げがありました。なんとその時、その店のテレビにはチェルシーフラワーショーのドキュメンタリー番組が流れており、石原和幸さんが出演していたのです。内容は英語だったのでわからなかったのですが20分ほど出演しており、スタッフの方々はいよいよ盛り上がりました。

24日にヒースロー空港から日本に向け出発し、25日に帰国しましたが、今回の参加で得られたものが3つあります。1つ目に園芸という職業は体験しようとしてできるものではないですが、私は苔を触ることが好きになりました。2つ目に海外での生活を体験することが出来ました。言葉の通じない中不便な面もありましたが、意志が通じたときはとても嬉しかったです。3つ目に自分自身についてです。渡英中私はホームシックにかかり、地元がたいへん恋しくなりました。この気持ちは日本を離れないとわからないもので、今後就職してからも忘れずにいようと思います。

最後に石原和幸さんからご指導を受け感じたことは、とにかく熱い人であるという事です。指示を頂く際に「ドーンと！」など効果音をよく使っている方で、最初の内は何を伝えたいのかわからない時もありました。しかし自分の意志を率直に伝えてくださる方だと分かるようになりました。また、よく人を見ている方だと思いました。スタッフの個性だったり行動をよく見て指示を出され、話しかけられたりと、とても接しやすく、リーダーとしての器を感じました。自分と年の離れた方々と共に生活し、仕事を行ったという今回の経験はこれからの糧となります。在学中にこのよう貴重な体験が出来たことはとても良かったです。私は卒業後に就職しますが、この経験をどのように生かしていくのか、これから十分に考えていきたいと思います。